

【設計・監理＝オリコンサルグローバルJV ヤンゴン・マンダレー鉄道整備が起工 施工＝鉄建JV、東急建設】

ヤンゴン・マンダレー鉄道整備が起工

ミャンマーの3つの主要都市を結ぶ最重要路線であるヤンゴン・マンダレー線を改修・近代化する「ヤンゴン・マンダレー鉄道整備事業（フェーズ1）」が起工、11日には全8工区のうち、CP102（バゴー〜ニャウンレビン間）とCP103（ニャウンレビン〜タンゲール間）の2工区の起工式がヤンゴン近郊のニャウンレビンで開かれ、2022年末の完成に向けて本格着工した。

施工はCP102工区が鉄建建設・りんかい日産建設JV、CP103工区は東急建設が担当。14年から開始したフェーズ1（ヤンゴン〜タンゲール、270キロ）の詳細設計に引き続き、オリエンタルコンサルタンツグループを幹事会社に日本コンサルタンツ、パシフィックコンサルタンツ、トーチコンサルタンツ、日本工営のJVが入札支援と施工監理業務を担当する。

ヤンゴン・マンダレー線は、同国最大の商業都市ヤンゴンと首都ネピドー、第2の商業都市



施工＝鉄建JV、東急建設 設計・監理＝オリコンサルグローバルJV

であるマンダレーを結ぶ約620キロの路線。国の経済動脈として旅客・貨物の輸送需要が高まる一方で、長年にわたる軌道整備不足や橋梁、設備、車両の老朽化が進み、列車走行速度の低下や遅延、脱線事故などが生じており、輸送サービスの向上が課題となっていた。

今回の事業は、国際協力機構（JICA）の有償資金協力を基に計画されたODA（政府開発援助）事業で、老朽化した施設・設備を改修し、旅客・貨物の安全性や輸送能力を向上させ、同国の経済発展と国民生活の質向上に貢献する。フェーズ1の完工により、23年にはヤンゴン〜タンゲール間の所要時間（旅客）が現行の6時間から3時間に短縮されることが期待されている。

起工した2区間の円借款供与額は450億円。工事延長は、CP102が約80キロ、CP103は約116キロ。軌道を含む土木構造物の修復・改良や車両基地建設、信号通信整備の更新、電力工事などを行う。発注機関はミャンマー国鉄。工事請負額は鉄建建設・りんかい日産建設JVが約187億円、東急建設は約220億円。コンサルタンツ契約額は約32億円。

11日の起工式には、同国のタン・ズイン・マウン運輸通信大臣、ミャンマー国鉄のトゥレイン・ウイン総裁、オリエンタルコンサルタンツグループの米澤栄二社長、鉄建建設の中川泰常務執行役員、東急建設の飯塚恒生会長らが出席した。写真。